

一次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

蔡順<sup>さいじゆん</sup>は、汝南<sup>ちよなん</sup>といふ所<sup>①</sup>の人なり。天下<sup>②</sup>おほきに乱れ、また飢渴<sup>きかつ</sup>して、

食事に乏しければ、母のために、桑の実を拾<sup>③</sup>ひけるが、熟したると熟せざるとを分けたり。この時、世の乱れにより、剥<sup>④</sup>ぎ取りなどする者ども来<sup>きた</sup>つて、蔡順に問ふやうは、何とて二色に拾<sup>④</sup>ひ分けけるぞと言ひければ、蔡順、一人の母を持てるが、この熟したるは、母に与へ、いまだ熟せざるは、わがためなりと語りければ、心強き不道の者なれども、かれが孝を感じて、米二斗<sup>と</sup>与へて去りけり。

〔二十四孝〕による

〔注〕汝南〓中国の地名。 おほきに〓たいそう。

飢渴して〓食べ物や飲み物が不足して。

剥<sup>④</sup>ぎ取りなどする者〓強盗。 かれが孝〓彼(蔡順)の孝行心。

斗〓ここでは、米の量を表す単位。

1 いふ<sup>①</sup> を現代かなづかいになおして、すべてひらがなで書きなさい。

[ ]

2 天下<sup>②</sup>おほきに乱れ とあるが、現代語訳するときに「天下」のあと

に、どのような助詞を補うとよいか。次のうち、最も適しているものを一つ選びなさい。

- ア より イ へ ウ が エ を

[ ]

3 拾<sup>③</sup>ひける とあるが、この動作主はだれか。次のうち、最も適しているものを一つ選びなさい。

- ア 蔡順 イ 蔡順の母 ウ 強盗たち エ 筆者

[ ]

4 剥<sup>④</sup>ぎ取りなどする者ども とあるが、「剥<sup>④</sup>ぎ取りなどする者ども」が言ったことばを本文中から抜き出しなさい。

[ ]

5 かれが孝 とあるが、「かれが孝」の具体的な内容についてまとめた次の文の [ ] に入る内容を、現代のことばで十五字程度で書きなさい。

蔡順が、拾った桑の実を二種類に分けて、 [ ] とすること。

[ ]

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある人、時刻を知らんためにとて、自鳴鐘を求めんとするを、その妻、<sup>①</sup>これをとどめていひけるは、明けくれにかくる世話のみにあらずくるひたる折からには、その隙をつひやし、自鳴鐘のために、かへりて時を失ふこと多からん。<sup>②</sup>やめ給へといへば、さあならば庭鳥を飼ふべしといふに、その妻、又とどめていひけるは、時刻は人のうへにあり潮の満干もこれとおなじかるべし。自鳴鐘、鶏を便りとするは、勤めに怠るもののいたすことなりと、夫を諫め、<sup>③</sup>つひに鶏をも飼はずなりにき。<sup>④</sup>

（柳沢淇園『雲萍雜志』による）

（注）自鳴鐘＝歯車じかけて自動的に鐘が鳴り、時刻を知らせる置き時計。  
明けくれにかくる世話＝（自鳴鐘に）毎日かける手間。  
さあならば＝それならば。  
便りとするは＝あてにするのは。

1 <sup>①</sup>これ とあるが、「これ」とは、だれがどうしようとしたことを指し示しているか。現代のことはで二十五字程度で書きなさい。


2 つひやし を現代かなづかいになおして、すべてひらがなで書きなさい。

\_\_\_\_\_

3 時を失ふこと多からん とあるが、現代語訳するとき「時を失ふこと」のあとに補うとよい助詞を書きなさい。

\_\_\_\_\_

4 やめ給へ とあるが、妻に「やめ給へ」と言われて夫が言ったことを本文中から抜き出しなさい。

\_\_\_\_\_

5 鶏をも飼はずなりにき とあるが、夫が鶏も飼わないことにした理由を次のようにまとめた。 a に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、本文中から四字で抜き出しなさい。また、 b に入る内容を、本文中のことばを使って五字程度で書きなさい。

時刻は a と同じで人の力の及ばないものなので、 b をあてにして生活するのはよくないと妻に諭されたから。

a


b


三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

暁、いとよきものなり。かう世はなれたる里ながら、昼のほどは、  
このように世間から離れた里ではあるが

とかくまぎるることもあり、宵のほどは、ひと日の疲れ、とり集めて

ねぶたきを、丑三つなどいふほどより起きいでて、文にむかひたる、  
書物

四方にはいささかの物音もなくて、いと心すむわざなり。 A は、

ひまもる風のいと寒きに、埋火うみびかきおこすほど、遠山寺の鐘の音、た  
すき間からもれる 遠くの山寺

だこもとに聞きなされるも、いとど、浮世遠き心地ぞする。 B

は、小雨そほそほと降りて、たえだえなる玉水の、かしはの枯葉にか  
とぎれとぎれの玉のようなく

かる音する。 C は、蚊こそうるさけれど、まきの板戸もささで

おきたるに、二十余日の月、窓ふかくさし入りたる。 D は、雁、  
かきお

きりぎりす、いとあはれにて、我もともになきあかさんとす。

(注) 暁＝夜中過ぎから夜明けごろまで。

丑三つ＝およそ今の午前二時から二時半。

埋火＝火鉢などの灰にうずめてある炭火。

きりぎりす＝「こおろぎ」の古名。

1 本文中の A ～ D には、春・夏・秋・冬のいずれかがそれぞれ一つずつ入る。適する語を選んで書きなさい。

A  B  C  D

2 ①ただこもとに聞きなされるも とあるが、どのようなことを表しているのか。次のうち最も適しているものを一つ選び、記号を書きなさい。

A むなしく空に消えていくように聞こえるのも

I まるですぐ近くで鳴っているように聞こえるのも

ウ はるかかなたから聞こえてくるように思われるのも

E ひっそりと自分だけが聞いているように思われるのも

3 ②ささでおきたるに の意味として次のうち最も適しているものを一つ選び、記号を書きなさい。

A 閉めずにおいたところが

I 錠をさしておいたところが

ウ 風流な作りにおいていたところが

E 破れたままにおいていたところが

4 この文章で筆者が述べようとしていることとして、最も適しているものを一つ選び、記号を書きなさい。

A それぞれの季節の趣を書いた書物を静かな暁どきに読む楽しさ。

I 季節の移り変わりの速さと暁どきにつのる一人住まいのさびしさ。

ウ 四季おりおりの宵から暁どきにかけて変化する情景のおもしろさ。

E 心静かに書を読む暁どきのよさとその季節おりおりの趣深さ。

四 次の文章は中国の故事を歌物語にした説話である。これを読んで、

あとの問いに答えなさい。

むかし、王子猷<sup>わうしいう</sup>、山陰<sup>さんいん</sup>といふ所にすみけり。世中のわたらひにほど  
されずして、ただ春の花、秋の月にのみ心をすましつつ、おほくの  
東縛<sup>とうばく</sup>されず

しつきをおくりけり。ことにふれてなさけふかき人なりければ、月の

光清くすさまじき夜、ひとり起きあてなぐさめがたくや覚えけん、高  
恐ろしいばかりに澄み渡つていた夜

瀬舟<sup>せぶね</sup>にさをさしつつ、心にまかせて戴安道<sup>たいあんどう</sup>をたづねゆくに、みちの程  
はるかに遠い

はるかにて、夜もあけ月もかたぶきぬるを、本意ならずや思ひけむ、  
道のりであったので 不本意に思ったのだろうか

かくともいはで、かどのもとよりたちかへりけるを、「いかに」とと  
「来ました」とも言わず、門前から引き返そうとしたのを

ふひとありければ、

もろともに月みんとこそいそぎつれ  
一緒に

かならずひとにははむものかは

とばかりいひて、つひに帰りぬ。心のすきたる程はこれにておもひし  
とうとう帰ってしまった

るべし。戴安道<sup>たいあんどう</sup>は剡縣<sup>えんけん</sup>といふ所にすみけり。この人のとしごろのとも  
数年来の

なり。おなじさまに心をすましたる人にてなん侍りける。  
はべ

〔唐物語〕による

(注) 王子猷 王徽之のこと。風流人として有名だった。

山陰 中国浙江省にある地名。

高瀬舟 へさが高く上がり、底が平らな小舟のこと。

戴安道 博学で知られた人物。

剡縣 中国浙江省にある地名。山陰の南に位置する。

1 わたらひ を現代かなづかいになおして、すべてひらがなで書きなさい。

2 なさけふかき人 とあるが、これとよく似た意味の語句を本文中から八字で抜き出さない。


3 本文中には和歌があるが、これはどのような問いかけのことに對して詠まれたものか。そのことばを抜き出さない。

4 心にまかせて戴安道をたづねゆく とあるが、王子猷がこのような行動をとったのはなぜか。その理由を簡潔に書きなさい。